美感の智恵（みかん）　by　寺庭婦人

連日の猛暑や西日本の豪雨被害によって野菜が不足し値段も高騰しています

だからではないですが　無駄なく大事に食べようとあらためて思います

子ども達にも食べ物の有り難みを日々伝えています

肉や魚　野菜の命を頂くという気持ち

飼育　栽培　に携わる方への感謝の気持ち

当たり前に食事ができ　快適な空間で家族と共に過ごせる　尊いことです

そんな幸せに感謝して過ごしていきたいですね

＜お知らせ＞

宝物風入れ展

一年に一度　三日間限定の特別公開
協賛者から拝借する戦国武将の甲冑や武器も出品

囲炉裏カフェ

住職手作りの精進菓子でおもてなし

蕎麦切り奉納

午前十時　大般若祈祷　※十日のみ限定開催
御祈祷後に蕎麦ふるまい
新蕎麦を奉納いただき　法要後その場で茹でてお召し上がりいただきます

講　談　「天目山勝頼公記」

壮絶な最期を遂げた勝頼公
「天目山の戦い」を語っていただきます

境内には茶席もございます。紅葉を見ながら一服どうぞ

平成30年　11月　9日（金）～11日（日）　9時～15時　志納500円

栖雲寺たより

天　目

第２７号

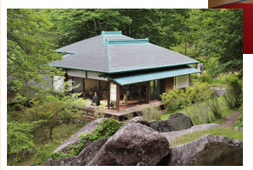
発行日

平成３０年９月１日

天　目　山　茶会

６月１０日（日）　新緑が眩しい栖雲寺の庭園でお茶会を開催しました。

「恁麼」



今回は石庭最上部の展望東屋にも一席設けました。息を切らして登った先でのお茶はまた格別、最高の味わいでした。

これまでと同じく石庭会館に一席

Ｑ　禅寺とはなんぞ

Ａ　『恁麼（いんも）』はいこれが答え。

ご協力いただいた先生方ありがとうございました。

天　目　寺　子　屋

春には私が学校へ出向き、授業をさせていただいた地元の大和小学校。去る7月27日、今度は児童が夏休みの勉強会で栖雲寺に来てくれました。4.5.6年生の22名が涼しい天目山の、中でも特に涼しいお寺の本堂で勉強。きっと夏休みの宿題もはかどったことでしょう。

江戸時代の学問施設は「寺子屋」といってお寺でした。そんな歴史上のことを実感してもらい、石庭や宝物館を案内、坐禅も体験してもらいました。

臨済宗建長寺派　天目山 栖雲寺　　住職　青柳真元
〒409-1201　山梨県甲州市大和町木賊122　TEL　0553-48-2797
http://www.tenmokusan.or.jp [栖雲寺]で検索　ブログ毎日更新

行雲流水　行脚で見た仏心　②

（全２回）

①の概要：建長寺での修行を終えて授業寺まで６日かけて歩いて帰る途中、檀家さんが通りかかり何度断っても半ば強引に車に乗せられ、村の入り口まで送ってくれました。
今号は①のつづきです。　①の内容はＨＰからもご覧いただけます。

目の前に困っている人がいたら放っておけない、重そうな荷物を持っている老人がいたら手を貸さずにはいられない。溺れている子どもを見つけたら自分の命など顧みずに飛び込んでしまう。そして見るからに怪我をし足を引きずって歩いている和尚がいたら見て見ぬふりはできない。そんな手を差し伸べずにはいられないような心というのは、親から教わるものでも、学校で教わるものでも、大人になったからといって急に身に付くものでもありません。どんな人でも生まれながらに持っている心です。お釈迦様はその思いやりの心を「仏心（ぶっしん）」といいました。そしてそれは誰もが平等に持っている心なのだと。お釈迦様の悟りとは正にここにあります。その仏心の種に気付かない人、気が付いても種のままで終わる人もいるけれど、その種を大事に育てていつか心の中にたくさんのきれいな花を咲かせよう。それが仏教の教えであります。

その檀家さんの行いは、恩を着せたわけでもなく、見返りを求めたわけでもなく、私の気持ちを無視したわけでもなく、ただただ仏心に従っただけのこと。人のあたたかいやさしさに触れることはたくさんあります。でもこの一件は私に仏心を気付かせてくれた大切な出来事の一つです。
車に乗ったことを誰かに話されたら・・・などと勝手に想像し、感謝の気持ちも持てなかった自分が今となっては恥ずかしく、そして情けなくも思えます。もしあの時、体裁と自己満足のためだけに好意を無視して立ち去っていたら、その檀家さんはどんな気持ちで私を置き去りにしたであろうか。当時はそんなことにまで考えが及びませんでしたが、鎌倉から歩く修行などしていても、きっとその時点で和尚失格だったであろうなとも感じます。

何年か経って、どこかの法事か葬儀の後席でその檀家さんと久しぶりにお会いし当時の話しになったとき、初めて素直に正直な気持ちで「あの時は本当にありがとうございました。」と伝えることができました。その檀家さんは笑顔で小さく片手をあげ「おーおー。」程度の返事しかくれませんでしたが、「まだそんなことに執着してたのかい、もうとっくの昔に忘れたよ。」まるでそう言われている様でした。

頭を丸めて建長寺専門道場に入門し今年でちょうど20年。道場を出て山梨に戻った後、再度鎌倉に出向する縁をいただき、大本山建長寺の寺務所にも居場所をいただきました。そして今なおこうやって僧侶を続けています。これもその檀家さんの声かけと仏心への気付きが根底にあると言っても過言ではなく、小さな事ですが私にとっては忘れる事のできないとても大きな出来事です。
先日箪笥の整理をしていたら、すっかり忘れていた墨画二点を偶然発見しました。私を永泰寺の門前で出迎えてくれた当時の永泰寺責任役員さんが描いてくれた墨画です。厳しかった修行道場での生活、そして激痛に見舞われながらも鎌倉から歩いた17年前のあの日々を思い出して懐かしむとともに、初心に立ち返ることができました。あらためて仏心を、感謝と思いやりの心の大切さを若い世代に伝えていこうと誓いました。

人は１人じゃ生きて行けない。お互いが助け合い、支え合い、時に衝突しても許し合い、愛し合って、この混沌とした世を生き抜いています。楽しいことは共有すれば倍増し、苦しいことは共有すれば半分になる。なんとも自分勝手で都合のいい解釈のようにも感じますが、そんな優しさと心の強さを兼ね備えているのが私たち人間です。思いやりの心をはぐくもう、そして人にやさしく生きていこう。誰もが平等に持つ仏心に従って・・・・
みんな幸せに、そして豊かになりたくて日々奮闘しています。たしかに物やお金の面では豊かになりました。しかしその反面、物で栄えて心で滅ぶの文字通り、心の幸せや豊かさは衰退が著しいのが現代社会です。
私たちが真の幸せを求めるのならば、終着点に通じているのは、自分の本性すなわち仏心への目覚め、この大道しかないのです。

住職　　青柳真元　　合掌

幻　住

「幻住」は天目山の代名詞ともいえます。

幻の衣を着　幻の食事を取り　幻の命を助け
幻の覚りと幻の禅で　幻の煩悩を消している
幻に住んだ主人公は　少し動いてはまた坐り
幻の華が幻の果実を生むのを静かに看ている

中峰和尚広録　幻住庵の歌抜粋　住職意訳

今より650年前、中峰和尚の弟子である栖雲寺開山の業海本浄和尚はこの禅庭で幻住坐禅をされました。

市内在住のプロカメラマンが奉仕で撮影してくれたもので、ドローンによる空撮です。そして坐っているのは私。今後も禅庭の四季、建造物、文化財などを撮影してくださいます。

観　音　募　金

お布施やお賽銭の一部を建長寺観音募金に寄付しました。先に書いた助け合い、支え合い、苦しいことの共有です。
西日本の豪雨によって多くの人が犠牲になり、また避難生活などで不自由な生活を余儀なくされています。震災を機に結成された臨済宗僧侶のボランティア団体も、観音募金をもとに豪雨の被災地で瓦礫撤去等の活動をしています。
世界中のみんなが等しく幸せになれますように、これが仏教の精神です。